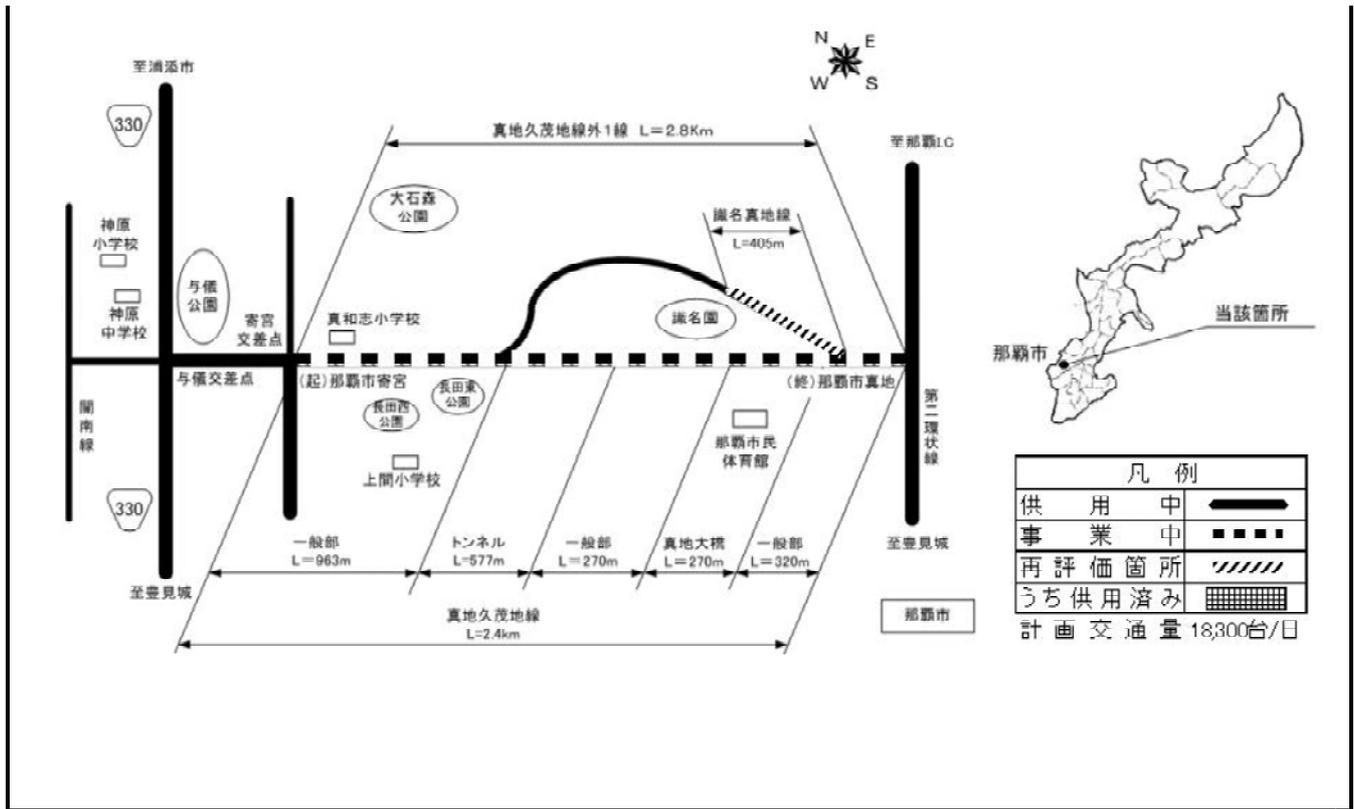


再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：沖縄総合事務局地方計画室

担当課長名：白金 義弘

事業名	識名真地線	事業区分	街路	事業主体	沖縄県
起終点	自 沖縄県那覇市御殿原 至 沖縄県那覇市御殿後原			延長	0.405km
事業概要：当路線は、真地久茂地線外1線街路事業の外1線にあたる街路である。バス路線にもかかわらず、線形が悪く、幅員も狭小である為、バス同士のすれ違いが困難な箇所もあり、また登下校の学生らの歩行も危険な状況にさらされており、安全快適な通行確保のために整備する延長405mの2車線道路である。					
S57年度事業化	S57年度都市計画決定 (H10, H14, H16年度変更)	S58年度用地着手	S59年度工事着手		
全体事業費	約338億円	事業進捗率	94%	供用済延長	255m
計画交通量	18,300台/日				
費用便益分析結果	B/C (事業全体) 1.7 (残事業) 7.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 74/339億円 (事業費：73/338億円 維持管理費：1/1億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 561/561億円 (走行時間短縮便益：534/534億円 走行費用減少便益：27/27億円 交通事故減少便益：0/0億円)	基準年	平成16年
事業の効果等 ・国土地域（現道等における安全快適な歩行空間を確保する。）					
関係する地方公共団体等の意見 学生を中心とした歩行者が多いため、学校や地元・自治体からも早期整備の声がある。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 バス同士のすれ違いが困難なこと、また登下校の学生らの快適な歩行空間の確保、並びに近くに高度多機能病院の開院も平成18年度に予定されている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 これまで（平成15年度末）に事業費ベースで94%の進捗で、用地取得率も81%まで達している。未買収用地は残り2筆で、その箇所の用地取得と街路工事が残事業となる。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 一部において用地補償交渉が難航したため、事業進捗の遅れとなった。引き続き任意交渉を進め、用地の取得に鋭意努力し、地権者の理解を求めていく。					
施設の構造や工法の変更等 特になし。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	用地買収も残りわずかであることから、現計画の推進が効率的である。				
事業概要図					



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。